

報道機関各位

教育委員会生涯学習課

タイトル

令和4年度「コミュニティ・スクールと地域と学校協働活動の一体的推進」に係る
文部科学大臣表彰の受賞について

下記のとおり報告いたしますのでよろしくお願いいたします。

行事・事業名	令和4年度「コミュニティ・スクールと地域と学校協働活動の一体的推進」に係る文部科学大臣表彰の受賞
日時	令和5年2月3日（金）午前10時30分～
場所・住所	赤穂市教育委員会第1会議室 （オンライン方式により表彰式に出席）
趣旨・目的（PRしたいこと）	<p>赤穂市立尾崎小学校の学校運営協議会及び尾崎地区まちづくり連絡協議会が、令和4年度「コミュニティ・スクールと地域と学校協働活動の一体的推進」に係る文部科学大臣表彰を受賞しました。</p> <p>表彰式にはオンライン方式にて参加いたします。</p> <p>オンライン方式での出席のため、表彰状は後日郵送されます。2月3日の表彰式では表彰状は手元にありません。ご了承ください。</p> <p>受賞の学校運営協議会等</p> <ul style="list-style-type: none">○尾崎小学校学校運営協議会○尾崎地区まちづくり連絡協議会
問い合わせ先	<p>部課係名：教育委員会生涯学習課（表彰式に関すること） 担当者名：橋本・亀井 電話：0791-43-6858 内線（2327） FAX：0791-43-6859</p> <p>部課係名：教育委員会学校教育課 （コミュニティ・スクールに関すること） 担当者名：田中 電話：0791-43-6860 内線（2331）</p> <p>部課係名：尾崎小学校（取り組み内容に関すること） 担当者名：大手 電話：0791-42-2108 FAX：0791-43-6107</p>

○添付資料（◎・無） ○ホームページへの掲載（有・無） ○議会報告（有・無）

地域とともにある学校づくり

～尾崎の子供は尾崎で育てる～

赤穂市立尾崎小学校学校運営協議会

1 学校運営協議会設置

平成30年から学校運営協議会を立ち上げた。委員の選定は地域の各種団体の中から子供と関わることに熱心な人材を選定した。地域と学校をつなぐ人材を集め、学校運営や地域での教育について熟議を重ねてきた。初めは評論家的発言も多かったが、当事者としての自覚を促すことで建設的な熟議ができるようになった。

2 学校運営の基本方針の承認

学校経営の基本方針を示し、それに対する意見聴取を行うとともに、承認を得た。子供が主役になれる学校づくりへの意見も出され、修正を加えた方針を決定した。

3 学校行事の在り方について

新型コロナウイルス感染拡大をうけ、学校行事の実施が困難なものや変更せざるを得ない状況が生じた。学校運営協議会をその都度開催し、実施方法や実施時期等も含めて検討を重ねた。従来通りとはいかないまでも子供たちにとって学校生活のよき思い出として記憶に残る学校行事を実施することが出来た。親の立場、地域住民の願い、各種団体の協力出来る事等、幅広く熟議をすることで、子供にとって必要な行事は実施することが出来た。また、この機会に学校行事そのものの意義や必要性についても再確認する場となった。

4 尾崎を学ぶ日

平成30年度から、土曜日を授業日として“尾崎のことを学ぶ日”を教育課程に位置付けた。この日は教科の学びではなく発達段階に応じた地域学習を行った。地域人材をゲストティーチャーとして招聘し、低学年は尾崎の民話、中学年は尾崎に残る史跡、5年生は尾崎八幡宮の秋の例大祭、6年生は昔の学校生活について学んだ。また、全校縦割り班で尾崎に残る史跡をウォークラリーでたどり自分が住む町のことを体感するとともに、異学年交流の機会とした。コロナウイルス感染拡大により令和に入ってから、尾崎の町についてのクイズを解くことで理解を深めた。ウォークラリーやクイズは尾崎まちづくり連絡協議会が中心となり、自治会、防犯協会、交通安全協会、尾崎小学校PTA、地域住民の参画を得て実施した。子供にとっては自分の住む町のことを知る機会、地域住民にとっては尾崎小学校の子供や学校を身近に感じる良い機会となった。この活動を継続することで、子供への関心が高まり、日常の見守り活動も充実していった。学校運営協議会の委員が持つ、それぞれの団体の強みが生かされる機会でもあった。子供の声が



すると家から出てきて声をかけてくださる人や、「街に活気が戻った」と喜んでくださる高齢者も数多くいた。子供と地域住民の接点として、顔が繋がる関係づくりのきっかけとして有効であったと思う。

5 地域課題への対応～学校運動場わきの溝清掃～

近隣住民から市議員を經由して相談が持ち込まれた。運動場の側溝から異臭がするので対応してほしいというものだった。解決方法はいくつかあるが、学校運営協議会の議題の一つとして提起した。熟議のすえ何とかやってみようと思った。それぞれの委員が各種団体に持ち帰り、特に消防団が積極的に参画して高圧洗浄する方法で解決を図った。緊急事態宣言があけた7月の作業は能率が悪く、側溝が2mぐらいの深さで



あること、20有余年手つかずであったこと、大量の土砂が堆積していたこと等で作業は進展しなかった。消防団長から「涼しい季節にもう一度やろう。」との提案を受け、10月下旬に実施した。教職員も全員参加し大変な作業であったが、100mほどの側溝をできた時のような状態にすることが出来た。学校運営協議会の議題にしなければ、市が予算措置をして業者が実施していたかもしれない。時間がかかり時機を逸していたかもしれない。“三人寄れば文殊の知恵”人のつながりが成果を生み出したと思う。地域にはすごいパワーが眠っていると感じた。

6 コミュニティースクール駐車場

本校のアフタースクールは学校の敷地内に設置されている。送迎の自家用車が夕方には頻繁に出入りする。夏場はいいのだが日が短くなると敷地内での子供との接触事故の危険性をはらんでいた。学校運営協議会設置当初から情報として伝えていたがしばらく進捗はなかった。委員の一人が同級生の造園業者にラインしたことがきっかけで、建設業者の同級生に繋がり令和4年1月から1ヶ月ほどで学校に隣接する学校保有地が駐車場として活用できるようになった。今ではアフタースクール関係車両が校内に侵入することがなくなり、子供の事故を心配することもなくなった。出来るかどうかではなく熟議を重ねることで子供たちの環境が改善されると痛感した。

7 地域の子供の居場所づくり

児童虐待や生活不安等で家庭での学習環境が良くない子供たちが存在している。そんな子供たちの地域での学習の場として自治会が管理している場を「寺子屋」として運営する構想が固まっている。実施しようとした矢先に新型コロナウイルス感染拡大があり、中座しているが近い将来実施できそうである。その中心となってくれたのが学校運営協議会の会長である。知り合いの地域人材を活用して子供にとっても関わる高齢者にとっても生きがいとなる活動が展開されようとしている。

8 終わりに

学校運営協議会を中心として、地域とともにある学校運営を目指してきた。“尾崎の子供は、尾崎で育てる”という意識が学校運営協議会を介して地域に広がってきている。その中心に会長である自治会連合会の元会長がいて、CSマイスターや地域コーディネーターの役割を担ってくれている。学校運営協議会の活用は、今、懸案である働き方改革にも有効に機能していくと思う。子供は地域総がかりで育てていくものである。